修士論文（要旨）
２００８年７月

ターミナルケアに関わる看護師の死生観と看護ケア態度の関係

指導　新野直明　教授

国際学研究科
老年学専攻
20641613
日比かおり

目次

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
１．研究の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
２．先行研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
１）看護師の死生観　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
２）看護におけるターミナルケア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
３）看護師の死生観とターミナルケア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
３．目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
４．用語の操作的定義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Ⅱ　研究方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
１．調査対象　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
２．調査方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
３．調査内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
４．研究の倫理的配慮　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
５．分析方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅲ　結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
１．対象者の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
２．ターミナルケアに関わる看護師の死生観　・・・・・・・・・・・・・・・・・6
３．看護師のターミナルケア態度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
４．看護師の背景要因とターミナルケア態度との関係　・・・・・・・・・・・・・6
５．看護師の死生観とターミナルケア態度の相関係数　・・・・・・・・・・・・・7
６．看護師の死生観、背景要因とターミナルケア態度との関係　・・・・・・・・・7
Ⅳ　考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
１．対象者の背景について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
２．看護師の死生観について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
３．看護師のターミナルケア態度について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
４．看護師の死生観、背景要因とターミナルケア態度との関係について　・・・・9
Ⅴ　結論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

引用文献

資料

Ⅰ．研究の背景

近年、医療の発展や、少子化、核家族化といった家族構造の変化により、死を病院で迎える人が多くなっている。患者とその家族が病院でよりよい死を迎えるには、看護師から質のよいターミナルケアを受けることも大切な要素である。ターミナルケアは死生観と関係すると言われ、ターミナルケアを行う看護師には、死に対しての肯定的な態度が必要と言われている。しかしながら、実際に死生観とターミナルケア態度について明らかにしている研究は少なく､看護師の死生観とターミナルケアの関係について明らかにすることは、看護ケアの質の向上を考える上で意義があると考える。

Ⅱ．目的

ターミナルケアに関わる看護師がどのような死生観を持っているのか、そして看護ケア態度の一つであるターミナルケア態度について、ターミナルケアに関わる看護師がどのような態度を持っているのかを明らかにした。また、死生観とターミナルケア態度との関係を明らかにするために、他の要因を調整した分析を行った。

Ⅲ．研究方法

都内の一般病院に勤務する全看護職員 153 名に質問紙を配布し、回答の得られた 131 名を対象とした（回収率 85%)。分析は質問紙の各設問において欠損値のない回答のみを有効とし、実施した。調査期間は 2007 年 12 月～2008 年 1 月であった。質問紙は、各部署の科長を通して配布され､同科長によって集められ､看護部長室へ届けられた｡調査内容は、年代や性別、婚姻の有無、看護経験年数、職場、職場での職位、3 年以内のターミナルケアに関する教育や学習の有無、家族や友人との死別体験の有無、宗教の有無、主観的健康度、現在、過去の疾病の有無、自分や家族の死を意識するような病気や怪我の有無といった背景要因、森口らによる臨床看護職者の仕事ストレッサー測定尺度、平井らによる「死生観尺度」、中井らによる「Frommelt のターミナルケア態度尺度日本語版(FATCOD-Form B-J)」の短縮版である。調査は集団のデータとして処理し、個人が特定されることのないといった十分な倫理的配慮のもと行った。分析には SPSS16.0 for Windows を使用した。最初に背景要因と、死生観尺度、ターミナルケア態度尺度の記述統計を行った。次に背景要因とターミナルケア態度の関係をみるために、背景要因の回答を 2 群に分けて両群のターミナルケア態度尺度の点数の差を t 検定により分析した。死生観とターミナルケア態度の関係をみるために、両尺度の相関を求めた。他の要因をコントロールした死生観とターミナルケア態度の関係をみるために、単変量の分析でターミナルケア態度と有意な関係を示した要因を独立変数、ターミナルケア態度尺度を従属変数として重回帰分析を行った。

Ⅳ．結果

死生観尺度、ターミナルケア態度尺度の得点を計算した上で、重回帰分析を行った。その結果、3 年以内にターミナルケア教育を受けた看護師、人生における目的意識の高い看護師、死への恐怖・不安の低い看護師が死にゆく患者へのケアに対し前向きであることが明らかになった。また、死への恐怖・不安の高い看護師、寿命観の高い看護師の方が、患者・家族を中心とするケアの認識傾向であることが明らかになった。

Ⅴ．考察

死生観、ターミナルケア態度については、既存の研究と類似の傾向が示された。死生観とターミナルケア態度の関係については、死への恐怖・不安の低い看護師が死にゆく患者へのケアに前向きであるという結果は、先行研究を支持するものとなった。これは、ターミナルケアに関わる看護師は、どうすれば死に対しての恐怖や不安を今より軽減できるのか、どうすれば死を回避しないようにできるかを考える必要があることを示すものである。人生における目的意識の高い看護師も、死にゆく患者へのケアに前向きであるという結果は、目的意識の高い看護師は、自分はこう生きていきたい、こう死にたいという希望があり、そのような思いから、死にゆく患者に対して前向きな態度を持てたのではないかと考える。人生において目標意識の高い看護師は、死にゆく患者と接することで、自分自身の死について考える機会を得ることで、今後の人生において目標や目的といったものを新たに見出すことも考えられる。ターミナルケアについて学習した看護師が、ターミナルケアに対して前向きだという結果は、前向きな人がターミナルケアに関して学習した可能性もあるが、質のよい看護ケアを行うためにも、看護師の自主性だけでなく、定期的にターミナルケアに関する学習をする場を提供する必要があるのではないかと考える。

死への恐怖・不安の高い看護師が、患者・家族を中心とするケアの認識を有する結果は、予想外の結果であった。しかしながら、死について恐怖や不安を持っていたとしても患者、家族を中心としたケアの認識はされているというこの結果は、今現在、死について恐怖や不安を抱いている看護師にとってよい結果だったのではないか。また、人は死について恐れや不安が完全になくなることはない。菅原が死への恐れはあるとしても自分なりの死生観を持ち、「死」の話題を患者と共有し語り合うことが大切だと述べているように、恐れていても、死を避けずに関わり、患者や家族にとって最良のケアを提供することが大切なのではないかと考える。

死生観や看護ケア態度は、日々の患者や家族との関わりや、生や死について考え、学習することによって変化していくものと考えるため、今後も継続して検討するべきであろう。

引用文献

1) 高橋正子：癌患者にかかわる看護者の態度と死生観との関係,日本がん看護学会誌,3(1),93-97,1989.
2) 小松浩子･小島操子：ターミナルケアに携わる看護婦と医師のストレス,看護学雑誌,52(11),1077-1083,1988.
3) 平井啓・坂口幸弘他：死生観に関する研究―死生観尺度の構造と信頼性・妥当性の検証ー,死の臨床,23(1),71-76,2000.
4) 岡本双美子・石井京子：看護師の死生観尺度作成と尺度に影響を及ぼす要因分析,日本看護研究学会雑誌,28(4),53-60,2005.
5) 中矢晃子他：看護師の死に関する意識,第 36 回日本看護学論文集（看護総合）,150-152,2005.
6) 増田早苗・齋藤紀子他：看護婦の死生観が死後の処置に対する行動にどう反映しているかを探る,死の臨床 23(2),2000.
7) 上田稚代子：看護師の「死観」と個人特性との関係　死の不安尺度および死観尺度に焦点をあてて,月刊ナーシング,18(12),1998.
8) 水野賢一・出川英行他：緩和ケア病棟に勤務する看護師の死生観とストレス,死の臨床,29(2),248,2006.
9) 田中直美・磯井智子他：ターミナルケアに携わる看護婦の死生観とストレスと個人特性との関連,第 23 回日本看護学論文集（看護総合）,75-77,1992.
10) 柏木哲夫：ターミナルケアとは，系統看護学講座　別巻 10　ターミナルケア(編集・柏木哲夫，藤腹明子)，第 3 版；30-31，医学書院，2000.
11) 菅原邦子：末期癌患者の看護に携わる看護婦の実践的知識,看護研究,26(6),486-502,1993.
12) 二渡玉江・入澤友紀他：終末期患者に対する看護師の意識および行動に関係する要因の検討,がん看護,8(3),2003.
13) 野戸結花・三上れつ他：終末期ケアにおける臨床看護師の看護観とケア行動に関する研究,日本がん看護学会誌 16(1),2002.
14) 田中愛子：終末期患者の看護ケアに関連する要因の分析研究、山口県立看護学部紀要,１,31－40,1997.
15) 中井裕子・宮下光令他：Frommelt のターミナルケア態度尺度　日本語版 (FATCOD-B-J) の因子構造と信頼性の検討,がん看護,11(6),2006.
16) 大西奈保子：ターミナルケに携わる看護師の「理想の看取り」,臨床死生学,9,25-32,2004.
17) 森口和代･森河裕子他：臨床看護者の仕事ストレッサーについて,健康心理学研究,11(1),64-72,1998.
18) Rooda LA,Clements R,Jordan ML:Nurses’attitudes toward death and caring for dying patients.Oncology Nuesing Forum26(10),1683-1687,1999.
19) 瀬川睦子・原頼子：終末期看護実習における死生観構築と共感性育成の効果的指導,川崎医療福祉学会,15(1),141-147,2005.